

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401717
法人名	株式会社あおいホーム
事業所名	グループホーム あおい (ユニット名 2F )
所在地	福岡県福岡市早良区西入部2-7-20
自己評価作成日	平成26年4月1日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川に囲まれ、季節を感じさせる田んぼや畑をホームの庭園に背景としてとり込み、広々とした自然な景観がある。生活の中では、我が家の様な雰囲気を大切に、利用者とその家族との信頼関係を築いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成26年5月2日

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あおいの理念及び、理念の伴う基本方針を1F,2Fの玄関及び事務所に掲げ、朝礼で唱和し実践出来る様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事・秋祭りには地域のボランティアに参加して頂いている。又、近隣の方からの自宅の庭のお花見等の招待を受け、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事(雑祭り・長寿の祝い・秋祭り・クリスマス会)は地域のボランティアの方々を招待し、交流を図る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度地域の民生委員・地域包括支援センター・訪問看護ステーション理事長・家族会の代表2名の出席を得て活発な意見を交換し、あおいの職員(看護師・介護士)に利用者の状況報告も兼ねて相互関係を深める良い機会であると考え。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの連携を密にして、何でも話し合える関係を築いて行きたいと考える。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしない為、常にスタッフが入居者一人ひとりの見守りを強化し、その実践と実行に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の職員への暴力は見られない。決してスタッフが利用者に対して暴力・暴言があってはならないと考え、スタッフ間でも話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員はグループホーム協議会及び研修等で権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を得る。その成果を研修報告として職員会議等で職員に伝える様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者の家族に充分説明し、理解納得して頂き、了解を得る。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会や家族と職員の面談を実施し、利用者の様子や意見を尊重し、参考にしてケアプランに生かしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や運営推進会議・勉強会等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。意見をまとめて記録を回覧し、より良い運営を推進する機会であると考えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者として職員個々の努力や実績勤務状況を把握して、給与水準労働時間を検討し、個々がしっかり自分の能力を発揮し仕事が出来そうな環境を作りたいと考えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様にしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	管理者として、職員の募集採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様にしている。又、職員が働きやすい環境を作るべく個々の能力を発揮し易い勤務体制を作りたいと考えている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	難しいところではあるが、職員の外部研修等への参加を促し、すこしでも人権教育・啓発活動に繋がっていけばと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行事等の企画や業務の役割の責任を任せ経験する事により職員の意識を高める。内外の研修も積極的に受ける様にしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会合等研修内容に応じ、職員を出席させ他の施設との交流により視野を広げてもらう。地域での「よかとこネット」に職員が参加する事により多くの情報を得てサービスに役立てている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを傾聴し、困っている事、不安な気持ちや要望等をいつでも気軽に相談して頂けるような関係作りを心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや困っている事、不安な事等を聞くと共に、職員による声かけや近況報告を常に心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や状態を傾聴し、当ホームの特徴を伝えて本人と家族の希望を聞き、情報として他のサービスの利用の可能性も伝えている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のその時々々の状況や状態に応じて、見守りや声かけ、少しの補助を行い自力で出来る喜びや達成感を分かち合っている。又、入居者とのコミュニケーションを図る事で多くの事を知り、学ぶ事ができ信頼関係が築けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生日会等、家族の参加を促している。又、家族の面会時には利用者の状況をお話する事で情報を共有し、信頼関係を築くように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がお手紙を書かれている時は、スタッフの方から進んで声をかけ、ポストへの投函のお手伝いをしている。テレビや雑誌等で利用者の方に関係のある場所や品物に目が止まると、一緒に見て思い出の話しを伺う様に心掛けている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の状態を把握し、常に見守りや声かけを行い、利用者間のコミュニケーションが取れる様に支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても「近くに来たから・・・」と言われ、立ち寄ってくださる方もある。入院されている方には家族に連絡をしたり、お見舞いに伺う事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を傾聴し、気持ちに添う様にしている。又、困難な場合には家族に尋ねたりして検討・対応している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴など生活の流れを重視し、これまでの培われた事を日々の生活に活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の出来る事やしたい事が実現出来る様に本人と話し合ったり、今までどの様な暮らしをして来られたか等ご家族に伺う事もある。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスや、状態の変化が見られた時にも家族やスタッフとの話し合いを持ち、必要に応じて訪看や医師に相談し意見を聞きながら介護計画作成を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを記録し検討し、計画の見直しに活かしている。スタッフの情報を共有し、日常の気付いた事やケアの実践記録に取り組む。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回の民謡会や秋祭り・クリスマス会・雑祭り会・長寿の祝に地域のボランティアの方が参加して下さったりご家族の方をお招きして一緒に楽しむ事が出来る様に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居時に家族の希望を聞き、主治医を決定する。当ホームでは、主治医の往診・訪問看護ステーションとの連携を取り、緊急時の対応や日常の健康管理を支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、主治医を決定し 精神科・歯科・眼科・皮膚科・の往診を受けている。当ホームは訪問看護ステーションと24時間体制で医療連携を取っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常の変化や情報等はスタッフ全員が共有出来る様にフアミーティングを行い、その中で必要時には家族にも報告をしている。家族の望まれる受診・看護を受けられる様に支援をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より訪問看護ステーションと家族との話し合いの場を持ち、医師・担当スタッフより状況の説明を受け、最良の状態での退院出来る様に関係作りを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の家族とは年2回位の割合で状況報告の場を持っている。その時点で家族の意向を確認し、主治医や訪看の指導受けながら方針を共有し支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションと医療連携を結んでおり、急変時には即時連絡をして指示をもらう。その指示に従い初期対応や応急処置は出来ている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、避難誘導ができ、消防学校・近隣・地域の協力体制も整っている。建物もスプリンクラーや熱感知時自動開錠装置も整えた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の希望や意向を聞き、本人が思いを表現出来ない場合は、家族に聞いたり本人の生活の中で思いや好きな事など把握する様に努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症があってもその方の思いを傾聴し、何を伝えようとしているのか、どうしたいのかを常に考えながら対応する事を心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れの中で、個々のペースを大切にしながら業務とのバランスを考えて支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・洗顔(顔拭き)整髪・衣類の好みや汚れ・ほつれはないか点検しながら対応している。行事毎にお化粧をしたり、アクセサリーをつけお洒落を楽しんで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や食材の事など話題に取り入れ、楽しい雰囲気の中での食事を心かけている。行事食(おせち・雑祭り会席・長寿の祝い・クリスマス)屋外食で雰囲気・見た目や盛り付けにも工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取や身体の機能対応食(咀嚼や嚥下機能にあった物。主食や副食の形体の対応) ・病態治療食対応(嗜好を考慮し残菜が少なく食べて頂ける様な治療食) ・個人の水分摂取量の毎日の記録(毎食後・10時頃・3時・就寝前)		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力に応じた援助方法をスタッフ全員が理解し、毎食後行っている。歯の清潔や口腔内の舌のケア。入れ歯の洗浄を行なう。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し介助に心掛けている。夜間はオムツをされている方も日中は紙パンツやパットで過ごされる方もおられる。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多い食材を取り入れている。飲水量は1日1000ml以上(飲み物を工夫している) 腹部マッサージや毎日ラジオ体操、リハビリ体操を行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午後から行っているが、入浴が嫌な方、拒否をされる時は時間や曜日をずらして、ゆっくりと入浴をして頂く様に支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や希望により、夜間の睡眠に影響のない程度昼寝や休憩を取り、夜間は個々にあった居室の明るさ・室温にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの処方箋を活用する。薬剤の治療目的や用法は医師の指示で服用し、症状の変化や食欲の低下等の副作用や状態の変化などを観察している。又、薬変更後の状態も報告している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きやテーブル拭き等積極的にお手伝いをして下さり、歌や作品作りなど個々に楽しまれている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は中庭で体操や歌等を唄われ楽しまれている。花見(桜・ひまわり・コスモス)野球観戦・山笠見物・ドライブを行なっている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は個々に事務所で預かり管理している。必要な時は一緒に買い物に行ったりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より手紙を出して欲しい・電話をかけてほしいとの要望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には常に整理整頓清潔を心掛けている。玄関に花を飾ったり居室に季節のイラストや写真を貼っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で過ごされている時間が多い為、テレビが観れる様にソファを置いている。テーブルでスタッフと話しながらおやつやお茶を飲んで過ごしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた馴染みの物を置いている。家族の写真や本人の写真を飾っている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖歩行や車椅子での自力移動をされる方の安全の為、物を置かないように心掛けている。		